

竹下聖の  
Vol.62 **ラグビーコラム**  
番外編

4年に1度のラグビーW杯で、2大会連続のベスト8入りを狙った日本代表。フランスの地を舞台に熱戦が繰り広げられ、日本からも多くのファンが応援に駆けつけました。日本は決勝トーナメント進出をかけた2勝1敗で10月8日のアルゼンチンとの第4戦に挑みましたが、27-39と惜敗。涙の1次リーグ敗退となりました。今回はフランス南部の町・トゥールーズでの初戦チリ戦と、地中海に面したニースでの第2戦イングランド戦を現地で見届けた「サクラさん」の貴重な写真と臨場感伝わるレポートを紹介します。

# ラグビーW杯フランス大会・にわかファンの歩き方!

9月10日、  
日本対チリ(42-12)@トゥールーズ

トゥールーズのマナビオ駅に降り立つと、パリの騒々しさから一転、落ち着いた素敵な街でした。スタジアムは中心地からほど近いガロンヌ川の中洲にあり、メトロ駅から徒歩で橋を渡ります。

橋の途中で通行規制され観戦者だけになるのですが、その周辺は警備隊が何人も機関銃を持って配置され、万が一の事態と背中合わせの場所でもあることにヒヤリとしました。



▲橋の上から見渡すスタジアム・ド・トゥールーズ



▲会場ごとの名前が入った人気のビールカップは、再利用してビールが安くなるエコ仕様

▲日本のベースキャンプ地でもあった、トゥールーズの玄関口、マナビオ駅。駅壁面や通路に日本選手の写りが大きく飾られ、日本代表が歓迎される様子が伝わった

30度を超える強い日差しの中、身体検査などを終えゲートを通ると、そこは別世界のように盛り上がり、明るい熱気が充満していました。紅白(日本)と赤(チリ)のジャージが入り混じり、楽団や露天の賑やかさに、やっとこの場所に辿り着いた!と、心が躍りました。スタジアム周辺の写真を撮っていると、チリサポーターが陽気にカメラに映り込んできたり、ハッピーや侍姿の集団がいたり、お祭りのような華やいだ空気です。日本は貴重な1勝を上げ、選手達のほっとした表情

が印象的でした。

初出場のチリは、劣勢でも最後まで明るいサポーターに大声援を送られ心強かったはず。パワフルな応援に支えられ、大会後さらに活躍する予感がありました。

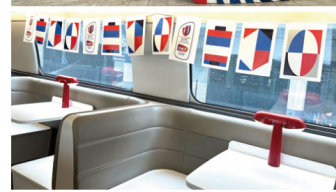
私は、たまたま出会った熱烈ラグビーファンのご家族と一緒にその日は余韻を楽しみました! 出会う人たちのラグビー愛がそれぞれ濃くて、濃厚な旅になりました。



◀ニース駅前は意外にコンパクト。ここからパリまでのTGVの車窓から見える景色は、絶景が続くのでおすすめ!



▲ニースにて、イングランド戦当日のランタイム。もうすでに出来上がっているイングランドサポーター  
◀TGVの食堂車はW杯仕様で飾られていた。パリからは約5時間



▼イングランド戦が行われたスタジアム・ド・ニース



## ハタケヤマ サクラ

都内在住のアラフィフ女子。全くわからない状態から、仕事を通してラグビーに関わる様々な方と交流を深める中で、徐々に魅力にハマった異色のにわかファン。意を決し、ラグビーW杯観戦一人旅を計画し、想いを果たす。日本代表では斉藤直人選手推し。



▲10月8日のアルゼンチン戦で、エスコートキッズと手をつなぎ入場する日本代表。先頭は姫野主将 ©JRFU



▲第3戦、4戦でSHとして先発し、絶妙な追走からトライを決めたSH斉藤。今大会の早稲田大出身6選手のひとつ。26歳、円熟味を増した4年後のW杯に期待がかかる ©JRFU

▼日本のファーストトライを決めたLOファカタヴァ。前回コラムで紹介した通り現地で追加招集され、4試合全戦でスタメン出場。大会を通して3トライを挙げるなど覚醒した ©JRFU



1次リーグ敗退が決まった試合後に、円陣を組む戦士。「One Team」を合言葉に、バックアップメンバー、スタッフが一つになった! ©JRFU